

## 住みたい町きたじまの会について

### 地域福祉計画から繋がる「住みたい町きたじまの会」

地域福祉をよりよくするために、制度を充実させること、サービスを提供する事業所を増やすことだけでは不十分です。

人々の生活は多様で、日常の困りごとはほんの小さなことであることもしばしば。制度の狭間で困りごとを抱えたままになっている人がいるかもしれません。また、人と人とのつながりが少なくなり、寂しい思いをしている人もいるかもしれません。

#### 高齢の一人暮らし…

一人で電球が換えられない…  
一人で外出できない…  
寂しい…



親の介護も子どもの  
世話も両方しないといけない  
誰にも頼れない…



北島町に住む人たちが自分の住む地域のことを知ること、北島町で起こっていることを共有すること、地域の困りごとに対して自分たちにできることを考えてみることで、町民さん同士の助け合いが生まれることで、制度の狭間で困っている人、日常の些細な困りごとを抱えている人、孤独を抱えている人を支えることができ、北島町の地域福祉がよりよくなります。

町民さんが、地域を知ること、共有すること、自分たちにできることを考えること。これを実行するため、「住みたい町きたじまの会」は生まれました。

### 小学校区で地域を考える意味

「住みたい町きたじまの会」は北村、新喜来、太郎八須の3つの地区を対象にしています。

北島町全体で考えると、地域で行う活動を考えるときには範囲が広すぎる…自治会単位で考えると、自治会に入っていない人が対象にならなかつたり、自治会の負担がどんどん大きくなってしまつたりする…

地域の困りごとを考える際にも、地域の活動を考える際にも、小学校地区という単位が行動しやすいと言われています。